

「山姥」



ツレ・・・小面「山姥の曲舞」を舞う
ことで有名な
遊女、
百魔山姥
(ツレ)が、
善光寺参り
に出かけます。

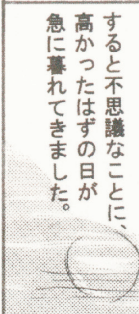


百魔山姥
(ツレ)
ワキツレ
従者
(ワキ)
ワキツレ

琵琶湖を北上して
境川まで来た時、
善光寺まで行く
三つの道のうち
最も悪路とされる
上路越えを、
阿弥陀如来に
近づく修行の道
としてとることに
しました。



すると不思議なことに、
高かったはずの日が
急に暮れてきました。



そこへ、
女(前シテ)
が現れて
自分の魔
へと
誘います。
もし、
よろしければ
うちへ泊まりませんか



前シテ
・・・曲見

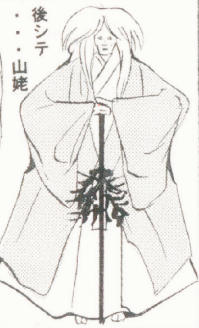


女は自分が
本当の山姥であることを
明かします。

えっ
私のことを知っている
なんて、まさか
あなたは・・・

ありがとう
助かります

その代わり
あそこにいる
女の人の
山姥の歌が
聞きたいの
ですが



後シテ
・・・山姥

約束の
期限に
百魔山姥が
悪い
はじめると
果たして
山姥が
真の姿で現れます。

月の出を待つて縋って
くださるなら、
私も真の姿をあらわし
共に舞いましょう
消え失せます。



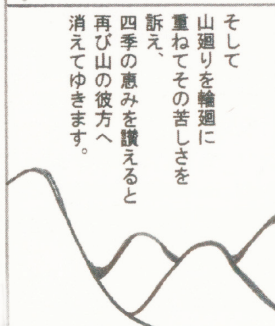
少し
待つて下さい



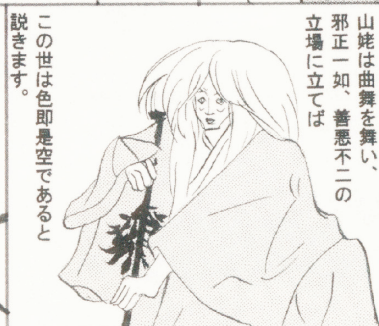
恐ろしさを堪えて
百魔山姥が
舞を舞おう
とすると、



どうか「山姥の曲舞」を
謡い、舞って
私に見せてくださいませんか



そして
山廻りを輪廻に
重ねてその苦しさを
訴え、
四季の恵みを貰えたと
再び山の彼方へ
消えてゆきます。



この世は色即是空であると
説きます。



今回は「杖之型」の小書が
ついていきますので
後シテは扇を用いずこの
「鹿背杖」のみで舞います。